

藤枝市教育委員会

平成26年9月定例会会議録（要約）

- 1 開催日 平成26年9月29日
- 2 場所 藤枝市役所西館5階 第2委員会室
- 3 会議に附した事項 (別紙のとおり)
- 4 出席委員
委員長 山根 紗智子 委員長職務代理者 下田 實男
委員 松浦 正秋 委員 大社 幸子
教育長 山本 満博
- 5 欠席委員
- 6 出席した事務局職員
教育部長 村松 一博 教育政策課長 山崎 仁志
教育推進室長 栗山 淳子 学校教育課長 森下 覚司
主席指導主事 梶川 佐知子 学校給食課長 山下 貢
生涯学習課長 片山 豊実 図書課長 成岡 均
総務係長 横山 茂幸 書記・主任主査 岸本 倫子

教育委員会 平成26年9月定例会

日時 平成26年9月29日 午前9時
場所 市役所西館5階 第2委員会室

1 開 会 午前9時

2 会議録署名委員氏名 下田實男委員、松浦正秋委員

3 日程第1

・諸般の報告

教育部長	1 9月市議会定例会一般質問の要旨について
教育政策課長	1 教育委員会制度の見直しについて 1 登下校時児童生徒安全確保講習会について
教育推進室長	1 第2回プレイパーク試行(8/30,31)の報告
学校教育課長	1 平成26年度文化活動県大会以上出場者について 1 「ふじえだ教師塾」後期開講式について

4 閉 会 午前10時10分

教育委員会 平成26年9月定例会

日程第1

事務局

- 1 9月市議会定例会一般質問の要旨について
5名の議員から質問あり

- 1 教育委員会制度の見直しについて
藤枝市では教育長の任期（平成28年9月末）までは従前どおり
総合教育会議については平成27年4月1日設置

- 1 登下校時児童生徒安全確保講習会について
平成25年度に第1回を開催
今年度は未受講者、新規ボランティア約200人が参加

- 1 第2回プレイパーク試行（8/30,31）の報告
別添資料のとおり
10/7にボランティアとの反省会
今後の藤枝型プレイパークについて考えていく

- 1 平成26年度文化活動県大会以上出場者について
部活動は無いが、各学校とも音楽に力を入れている

- 1 「ふじえだ教師塾」後期開講式について
現在、大学生・院生15名から申込あり
採用試験を終えて来年度に向けて開講

委員長

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

委員

9月議会の質疑応答の中で中学校の週あたりの授業時間数が平均21.5時間とあるが、これが果たして多いのか少ないのかわからない。教科によってどう違うのか、特に多い教科がある等、わかれば教えてほしい。

2つ目にいわゆる地域の名人だとか、いろいろなことの得意な人を市でもリスタアップしてあったり、学校で資料を持っていたりしていると思うが、そういう人たちは、今どのくらいいるのか。

それから、「各中学校の部活動の掌握」についてのところで、専門の指導者がいない学校で、地域のボランティアをお願いしている学校があるのか。もしあるのなら報酬や、活動日などの状況はどのような形をお願いしているのか。また、スポーツに限ったことではないが、指導者がいないので部活ができなくなってしまったというような事も聞くが、そういったことについての考え方はどうなのか教えてほしい。

また、スポーツの分野で、市の体育協会等との話し合い等はされたことがあるか。これから色々なところでどうしていくのか考えを聞かせてほしい。

それからもう一つ、サッカー等の部活でクラブチームに入っていて学校の部活に入れないことがあるようだ。その理由は2重登録をしてはいけないことになっているため、クラブチームで優先的にやるので部活は入らなくていいという事ようだ。子どもの数が減っている中で、小規模校で部活ができないためクラブチームに行くのは当然だと思うが、そうではなくて指導者等の問題で将来を見越してという事もあるかもしれない。その辺りについての対応策は考えたことがあるのか。もしくはこれから考えていくのか。

「適正就学」のところで、近年の就学指導審議対象の数ということで、平成20年度の100名から平成25年度は242名と倍以上に増加している。より細かい規定になったからこうなったのか、その辺りを教えてほしい。

最後に「AED」はすべての小中学校に備えられているのか。

事務局

学校サポーターズクラブ事業について、地域の名人等の登録やリストアップをしてあるかということですが、ひとつは人材活用のための登録制度がありまして、平成26年3月31日現在で、342人の方に登録していただいています。特に学校サポーターズクラブにつきましては、各中学校区にコーディネーターを配置して、特にその中学校区の中での学校側からの要望に対して、地域の方々にご協力いただいております。

事務局

「AED」についてお答えします。「AED」は日本語で言うと「自動体外式除細動器」と言って、心臓の心室が細かい動き、いわゆる痙攣状態になった時に電気ショックを与えて正常な拍動に戻すという装置です。今すべての小中学校に設置されておりまして、頻繁ではありませんが何回か使用されています。

事務局

授業の平均時間数についてお答えします。中学の教員は教科によって授業時間数が異なりまして、一番多い教科となると国語で週5時間となります。少ない教科は音楽、美術、技術・家庭で週1時間程度です。それぞれの教科の教員によって持ち時間数が変わってきています。ただし、音楽や美術については、ひとりで全学年の子どもを見ますので、千人近い子どもをひとりで全部見なければならない教科もあります。学校によっては全部の教科の教員が置けない場合がありますので、音楽の教員を入れて美術の教員は免許外で対応するというように各学校で工夫しているところです。それらを平均すると21.5時間というところです。

次に部活動についてですが、部活動の外部コーチについては、学校や競技によって人数は違ってきますが、市内全体では約60名の方に依頼しています。ただし、外部コーチを依頼しても学校の顧問は必ず付けていますので、その外部コーチだけにすべてをおまかせしているわけではありません。大会への引率については、学校の教員が必ず引率しなければならないという中体連の規定がありますので、そのようにやっています。サッカーについては、確かに2重登録をしてはいけないことになっているため、クラブチームに入っている子どもたちは部活(中体連)には登録しないで、クラブチームとして参加したり、クラブチームだけの大会に参加するなどしています。これについての検討は特にはしていません。

次に、特別支援教育についてですが、「適正就学」で就学指導の審議になっている子どもの数が約2.5倍弱と増加していますが、これについては、そういった子ども自体が増えているという事もあります。色々な特別支援教育の必

要性が叫ばれていて、教員も研修を積んでそういう子を見抜く力もついてきていて、子どもを見る中で保護者のみなさんに相談をかけたりすることで増えていることもあります。実際、特別支援学級は市内でも多くの学校で設置されて身近になっていて、学校を変わらなくてもそちらに行けるようなシステムも段々できていて、それなら入れてみようかという保護者の理解もされてきている現状もあると思います。

委員

特別支援教育についての話はとてもよく理解できた。以前に北村市長が、支援が必要な子どもたちに対しては特に力を注いでいかなければならない。だから、いずれは各学校に特別支援学級を設ける事も考えているとおっしゃっていた。ただ本当に驚いたのは、子どもの数はどちらかというと同じか減少している中で一気に2.5倍とは、おそらく保護者の気持ちとしては感謝するというよりは、うちの子が・・・というとまどいがあるのではないか。そうした中で、保護者にも十分わかるように、こういう事業は子どもにとって大切であり、とても素晴らしい事業であるということをもっともっと宣伝をして、みんなが安心して入って行けるようにしてほしい。

委員

「放課後子ども教室」を放課後や週末等に開催しているところがあるが、これは不定期に年間通じて開催されているのか。それから、田沼で子どもたちを集めている地域の方が、年間色々なイベントを立ち上げて子どもたちと活動していたり、地域の方が総合遊びのようなものを体育館を使って低学年の子どもたちを集めてやっているが、そういうものとこの事業は同じか。

事務局

「放課後子ども教室」は本市には今、藤岡、広幡、大洲、西益津、葉梨、高洲と高洲南の合同、青島東の小学校区を対象にしたところに7教室あります。これにつきましては、「大洲ジュニアクラブ」という名称のところですか、青島東では「ふれあいサタデーパーク」という名称でやっているところ等、必ずしも「教室」という名称ではないので、わかりにくいところがあったかもしれません。

これらの教室につきましては、基本的に月2回程度開催されています。中には平日に少しやっているところもありますが、だいたい土曜日の活動が多いです。今後はこれについても増やしていきたいという希望はあるのですが、受け皿になってくれる地域の団体的なものが必要になってきて、そこが今できていないため少し停滞しています。

委員

子どもたちの様子を見てみると、スポーツ少年団やクラブチーム等に盛んに出かけて活動している子どもは、とても意欲があって生活にも張りがあると思うが、何もしない子どもたちにこういう場があることで、活動の場や友達や地域の方とふれあう場ができて素晴らしいと思う。

委員長

「適正就学」の件だが、特別支援学級で何年か教育を受けて、普通学級に通えるようになるお子さんもいると思うが、人数的にはどれくらいあるか。

事務局

実際は、普通学級に戻る子どもたちは大変少なく、ほとんどいないような状態です。といいますのは、本当に色々な検査をして医学的にも裏付けもあって保護者に話をしたりして行っていますので、その子たちは学校を出て、社会に出ていった時に適応できるために今やっているという事なので、症状が改善してくるケースはたいへん稀だと思われます。

委員長

医学的に治療をしても難しいですか。

教育長

色々なケースがあります。私が青島北小学校にいたときの5年生で、青島小学校の知的学級に行っていた子がいましたが、その子は6年生になるときに青島北小学校の普通学級に戻ってきました。それは1年間見ていただいてその判定の中で、特別支援学級から通常学級へという判断だったのだと思います。ですが、そういう子は人数的には少ないと思います。

委員

藤枝すみれ会の保護者の方々は子どもの将来をととても危惧している。今のお話の中で感じたのだが、フィルターが大きくなった、あるいは壁を下げた事で対象の子どもが2.5倍になったという事だが、保護者が理解する中で子どもの将来のために良いと考えてすすめている事ではあるが、その先通常学級へ戻る事が稀だとすると果たしてそれでよかったのか。

グレーだった子どもで通常学級で育てられた子どもはどうだったのでしょうか。以前のフィルターが粗かった状態と今とではどちらがよかったのかと考えてしまう。どんどんこういう時代になっていく気がするので、親がたとえばダウン症等の子どもを抱えたときに、地域がもっともっと優しくしていかないと育てられない時代になってしまうのが心配だ。

教育長

それについては、壁を下げたという事ではありません。それはたとえば支援を要する子どもたちが増えてきたという事にも関係するわけですが、親も特別支援という考え方について色々勉強してわかってきたり、先生方も特別支援についての勉強をしながらそれぞれの子どもの見てきた中で人数が増えてきたのだと思います。今までもあったと思うのですが、ボーダーラインにあってわからない状況にあったものが、勉強することによってはっきりしてきたり、親も理解を示すようになってきたという事によって増えてきたのだと思います。

委員

特別支援教育の中には発達障害が含まれているので、それで通級に入るにもこの就学指導委員会を通るといように制度が変わってきたので、それによって増えたのではないかと考えていた。通級だと在籍学校があって、通級指導教室に通う事によってたとえば情緒等の障害のある方もコミュニケーションを学ぶ事で、通常学級に戻ってきたときにそこで学んだコミュニケーションを集団の中で活かす事ができて、生活や学習がうまくできるようになるという改善はされてきているので、先程あったような支援学級でよくなるのは少なくとも、この就学指導の形で通常学級でみんなと仲良く関わりながら学べる子どもが増えた事は喜ばしい事だと思う。

教育長

今、藤枝市では発達支援システムができて、0歳から高校を卒業するまで対応していますが、それが機能してくればそういう子どもたちにも、更にしっかり対応できていくのではないかと思います。

委員長

ほかに質疑はありませんか。

委員長

それでは、以上で本日の全日程を終了いたしましたので9月定例会を閉会いたします。

閉会 午前10時10分